京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

平成28年7月20日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　辻　井　昭　雄　様

所属部局・研究科　医学研究科

職　名・学　年　　博士後期課程1年

氏　　名　　本田　明夏　　㊞

助成の種類	**平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成**	
研究集会名	第20回国際出生前診断学会 20th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy	
発表題目	The information and psychosocial support provided during decision-making by pregnant women who are incidentally diagnosed with fetal abnormalities in Japan – An online survey	
開催場所	ドイツ、ベルリン	
渡航期間	平成28年　7月10日　～　平成28年　7月13日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　☑ 無　☐ 有(　　)	
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円
	使用した助成金額	350,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	学会参加費・諸経費730USドル 旅費　238,000円 （交通費、日当、宿泊料、旅券交付手数料込） 発表資料作製費　30,000円
当財団の助成について	今回、交付いただいた助成金により、海外で開催される学会へ、金銭面での支障を感じることなく出席し、研究成果を発表することができました。ありがとうございました。 また、手続きも非常にスムーズで、事務局の方には厚く御礼申し上げます。	

成　果　の　概　要

1. 参加学会の概要

学会名：20th International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy
開催場所：ベルリン（ドイツ）
開催期間：平成 28 年 7 月 10 日～平成 28 年 7 月 13 日
趣旨・内容：毎年、出生前診断および治療について、基礎的研究から臨床遺伝学に至る最新の状況が発表され、討議が行われる。胎児を対象とした医療であることから倫理的な課題も多く存在するため、ディベートによるセッションなどが開催されて議論を深める場でもある。さらに、教育的なセミナーも学会のプレカンファレンスコース（事前登録制）として開催される。今回、学会の主たるセッションに加え、6 つのプレカンファレンスコースのうち、「the Prenatal screening the era of cell-free DNA analysis」「the Shades of gray: Helping patients navigate the uncertainties that prenatal testing presents」の 2 つに参加し、出生前スクリーニングおよび曖昧な検査結果が得られた際の患者への支援を中心に、近年の動向について学ぶ機会を得た。

2. 発表の概要

報告者が発表を行ったポスターのタイトルおよび内容は下記のとおりである。
タイトル：The information and psychosocial support provided during decision-making by pregnant women who are incidentally diagnosed with fetal abnormalities in Japan - An online survey（出生前診断において胎児異常の可能性を告げられた妊婦および家族に対する情報提供の実態調査）」
背景：日本では、妊婦健診の一環として、日常的に胎児を対象とした超音波検査が行われているが、妊婦の健康や胎児の正常な発育をモニタリングするだけでなく、偶発的に胎児異常が発見されることもある。しかしながら、胎児異常が発見される可能性に関して、妊婦や家族の認知度は低いと報告されている。また、偶発的に胎児異常が発見された際の、妊婦および家族の意思決定プロセスに関する研究は少なく、遺伝カウンセリングの関与する可能性も十分議論はなされていない。
目的：胎児異常の可能性を指摘された妊婦および家族の、意思決定の実際の経過、妊娠の転帰、遺伝カウンセリングの内容について調査し、情報提供および心理社会的支援の実態および必要性を明らかにする。
方法：インターネット上のアンケートシステムを利用した、無記名自記式アンケート
結果：対象者の女性の多くが、偶発的な胎児異常の告知を受けた際に、混乱したと回答した。医師による情報提供の内容については、ばらつきがあった。幾人かは、妊娠継続についての意思決定をするために、胎児の正確な診断、治療法の選択肢についての情報提供を強く希望していた。多くの女性は、胎児の状態に関する専門家からの情報提供、心理的な援助、意思決定プロセスにおける専門家からの支援を求めていた。
考察：対象者の背景事情により、必要十分な情報や心理社会的支援の内容は様々である。よりよい意思決定を支えるために、遺伝カウンセラーをはじめとする医療専門家のアプローチは有効であると考えられる。この点に関しては、さらなる研究により議論が本格化されることが強く望まれる。

3. 報告者の研究発表に関する成果

本集会に参加することにより、申請者が研究成果について発表するとともに、海外の研究者の反応を直に得られた。また、各国の現状について、参加している研究者と情報交換を行った。本研究は、論文投稿準備中であるが、今回学んだ内容をもとに、さらに議論を深めることを検討している。

4. 報告者の研究発表以外の成果

今回、報告者は国外で開催される国際学会に初めて参加し、最新の研究結果に触れ、同じ分野の研究者と交流することができ、大いに刺激を得た。また、モーニングセミナーと題して、論文の投稿方法や研究者としてどのように過ごしていくべきかについて、出生前診断の主要ジャーナルの編集者が講師となりディスカッションする場があり、報告者も参加することができた。会期中、並行して複数の発表が行われていたため、すべての演題を見聞きすることができなかったが、事後学習資料の請求を行い、オンラインによる視聴ができることになった。これらを、今後の研究にも活用していく予定である。

5. 謝辞

このたび、国際研究集会への参加および発表を行い、多くの研究者との交流・情報交換をする貴重な機会を与えていただきました、京都大学教育研究振興財団の関係者各位に心より御礼申し上げます。